複数の法域における並行手続

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

Keppelのグローバルな解決

2017年のKeppel事件は、シンガポールが複数の国と協調して解決を図った代表例です。米国司法省はKOMと訴追延期合意を締結し、その米国子会社はブルックリンの連邦裁判所で有罪を認めました。制裁金の総額は約4億2,200万米ドルでした。[1] 公表された発表によれば、ブラジルは刑事制裁金の半分にあたる約2億1,100万米ドルを受け取り、シンガポールはその4分の1にあたる最大約1億560万米ドルを受け取りました。[2] シンガポールの取り分は、CPIBが警告の条件として定めた5,280万米ドルの2回の分割払いに相当します。

この解決の構造は、各法域がどのように役割を分担したかを示しています。米国は捜査資源と米国市場という交渉上の力を持っていました。ブラジルは職員が賄賂を受け取った国であり、Petrobrasは被害を受けた会社でした。シンガポールは会社の本拠地であり、支払が組織された場所でした。各国はそれぞれ自国の法律に基づいて独自の制裁を科しましたが、会社が同一の行為について3回支払うことのないよう、金額は調整されました。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

充当と相殺

充当は、並行する解決を可能にする技術的な仕組みです。Keppelに対する警告では、シンガポールに支払われる2回目の分割払いは、3年以内に特定のブラジル当局に支払われた制裁金によって減額されることとされていました。Seatriumとの合意は、同じ手法をより詳細に適用しています。30か月以内にブラジルの受領者に支払われた罰金または刑事罰が5,300万米ドル以上となる場合、Seatriumは2回目の分割払いを一切支払う必要がありません。他の通貨による支払は、当日の為替レートでドルに換算されます。会社に返還された金額は、支払われなかったものとして扱われます。[3]

相殺は、同一または実質的に同一の事実について支払われた罰金および刑事罰に限られます。民事上の損害賠償や商業上の和解は対象となりません。したがって、複数の法域で交渉する会社は、外国での支払の性格付けを慎重に行わなければなりません。シンガポールの合意の条件の下で適格とされる支払だけが、シンガポールでの制裁金を減額するからです。

国境を越える証拠と個人の扱い

並行手続は、国内事件にはない証拠上の困難を生じさせます。Keppel事件における厳重警告についてのCPIBの説明は、それらを正確に列挙していました。すなわち、複数の法域にある文書、シンガポールでの証言を強制できない国外の証人、そして複数の当局の関与です。[4] 自主申告する会社は、自社の文書を提出し、従業員を協力させることができます。しかし、起訴事実を争う個人の訴追は、正式な要請によって取得しなければならないかもしれない証拠、渡航を拒むかもしれない証人、そしてシンガポールがその日程を左右できない外国の手続に依存します。

二重の危険の禁止の原則は、さらにもう1つの層を加えます。MACMAは、本人が同一の行為について既に有罪判決、無罪判決または恩赦を受けている場合、司法長官に共助の拒否を義務付けています。[5] 刑事訴訟法第149C

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

条に基づく時効期間の停止は、合意の効力が存続する間、シンガポールの立場を保護します。もっとも、会社がシンガポールで自認した事実陳述書は、国外の民事手続において会社に不利に用いられる可能性があります。それが、会社がその文言を慎重に交渉する理由の1つであり、Seatrium事件の裁判所がその公表を延期した理由の1つでもあります。

合意による調整

Seatriumとの合意は、その定義規定において外国の手続を想定しています。協力条項は、検察官またはCPIBが要請するときはいつでも、あらゆる「法執行機関」に協力することを会社に義務付けています。これは、犯罪を捜査するあらゆる法域の機関と定義されています。これにより、シンガポールの検察官は、外国の捜査当局が刑事共助の個別の要請なしにシンガポールの会社の協力を得るための経路となります。また、合意は、事実陳述書に「開示されていない」犯罪、または事実陳述書から生じたものでない犯罪について、Seatriumが訴追を受ける可能性を残しています。[6] 対象となるのは開示された行為だけであるため、完全な開示は会社自身の利益となります。

規制上の手続と刑事上の手続

並行手続はシンガポール国内でも生じます。シンガポール金融管理局は民事制裁金を科し、ライセンスを取り消し、禁止命令を発することができ、一方で検察官は刑事訴追について判断します。例えば1MDB事件では、元投資銀行家のティム・ライスナーが2017年3月に同局から禁止命令を受けました。この命令は、同人が1MDB捜査に関連する起訴事実を認めた後の2018年12月に、終身の禁止へと延長されました。[7] こうして、刑事捜査における自認が、シンガポールにおいて規制上の結果をもたらしました。訴追延期制度はこの相互作用を考慮しています。前述の第149C条が、合意の期間中、民事制裁金手続および懲戒手続の時効期間を停止しているからです。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. Wikipedia, “Keppel Corporation”（2026年11月最終閲覧）、Bloomberg, 2017年12月22日を引用：KOMは訴追延期合意を締結し、“to pay $422 million to end the U.S. bribery probe”ことに同意した；その米国子会社はブルックリンの連邦裁判所で有罪を認めた；Petrobrasおよび別の会社との13件の契約を獲得するために約5,500万米ドルが支払われた。 ↩

2. Keppelに対する制裁金の配分（ブラジル2億1,110万米ドル、50%；シンガポール最大1億560万米ドル、25%；米国が残余）は、2017年12月22日のDOJプレスリリースの二次的な要約による。 ↩

3. CPIB, “Conditional Warning Issued to Keppel Offshore & Marine Ltd”, 2017年12月23日, cpib.gov.sg；Government Gazette Notice No. 2439 of 30 April 2026, Schedule, clauses 6.1.1(b) and 6.1.2(a)–(d)。 ↩

4. CPIB, “Stern Warnings Issued to Six Former Keppel Offshore & Marine Limited Employees”, 2023年1月12日, cpib.gov.sg。 ↩

5. MACMA, s 20(1)(e)（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）。 ↩

6. Government Gazette Notice No. 2439 of 30 April 2026, Schedule, clauses 1.1(g) and 5.1；Government Gazette Notice No. 2439 of 30 April 2026, Schedule, clause 4.3(a)。 ↩

7. Wikipedia, “1Malaysia Development Berhad scandal”（2026年11月最終閲覧）：2017年3月、MASはティム・ライスナーに対して10年間の禁止命令を発した；2018年12月、同人が1MDB捜査に関連する起訴事実を認めた後、命令は終身の禁止へと延長された；第E部第VI章参照。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com